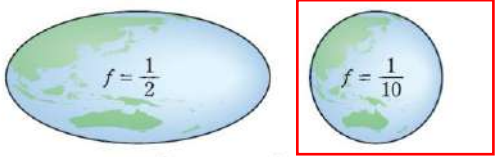
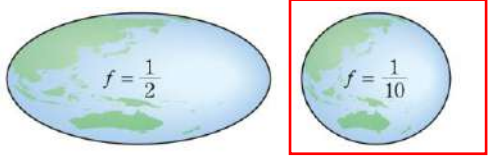
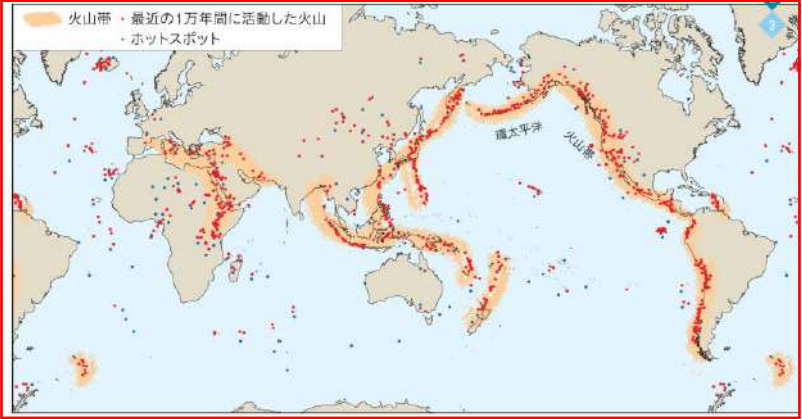
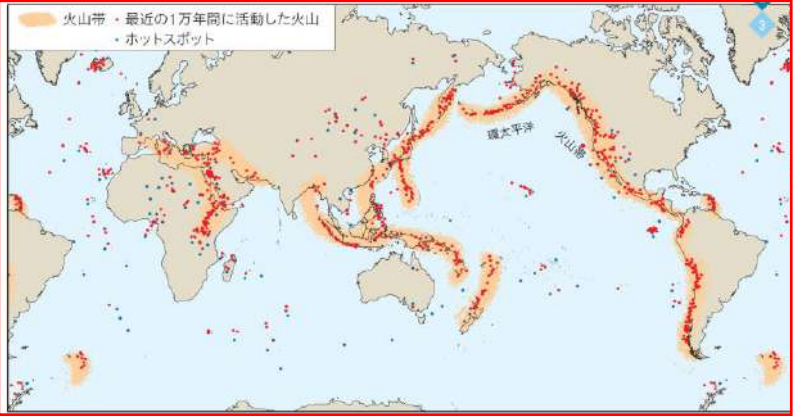


番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
1	11	図 7		
2	25	図 10		

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
3	29	図 4	<p>The diagram illustrates a cross-section of a subduction zone. On the left, a continental plate (大陸プレート) moves towards a trench. A volcano (火山) is shown on the continental shelf. Below the surface, magma (マグマ) is rising from the trench. An accretionary prism (堆積物) is formed at the trench. To the right, an oceanic plate (海洋プレート) is being subducted under the continental plate. The asthenosphere (アセノスフェア) is shown below the plates. A red arrow indicates the direction of plate movement.</p>	体
4	36	12	<p><u>初期</u> S-P 時間 (初期微動継続時間)</p>	(削除)
5	37	3-4	<p><small>おおもりこうしき</small> 大森公式 とよばれる。一般的には、P 波の速さを <math>V_p</math> [km/s], S 波の速さを <math>V_s</math> [km/s] とすると<sup>2</sup>、次のような関係がある。</p>	速度
6	43	6	<p>マグマが滞留する<u>もの</u>と考えられる。</p>	<u>もの</u>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
7	88	側注	<div data-bbox="658 292 884 335" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">           熱塩循環： thermohaline circulation         </div>	削除
8	138	図 5	↑図 5 <u>河原</u> で見られるインブリケーション	<u>川原</u>
9	139	図 6	<div data-bbox="551 687 1055 1018"> <div style="background-color: #0070C0; color: white; border-radius: 50%; padding: 2px 5px; display: inline-block;">級化</div>   </div>	<u>化構造</u>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
10	151	25-26	<p>起こったとされる。寒冷期には、光合成の低下<u>などのために二酸化炭素濃度が増加する。</u></p>	<p>光合成の低下や火山活動などによって二酸化炭素濃度が増加した。</p>
	164	5	<p>温の上昇と二酸化炭素、<u>酸素</u>の濃度を関連させて説明せよ。</p>	<p>削除</p>
	196	中段 5	<p>5 光合成が停止するため、二酸化炭素の消費がなくなり、火山活動によって二酸化炭素分圧が次第に増加していき、<u>いずれ逆にその温室効果によって温暖化が進むことになる。</u></p>	<p>光合成が低下するため二酸化炭素の消費がなくなり、さらに火山活動によって二酸化炭素の濃度が次第に増加していくため、<u>いずれ、その温室効果によって温暖化が進むことになる。</u></p>
11	155	2	<p><u>中生代</u></p>	<p><u>ちゅうせいだい</u></p>
12	157	5	<p>古第三紀の<u>中頃</u>には、</p>	<p><u>中ごろ</u></p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
13	157	21-23	<p>物化石が見つかっている。また、<u>新第三紀の地層からは、メタセコイア</u> (図7) やフウなどの暖温帯性植物が<u>茂っていた</u>。</p>	<p>また、<u>各地の新第三紀の地層からは、メタセコイア</u> (図7) やフウなどの暖温帯性植物が<u>茂っていたことがわかっている</u>。</p>
14	162	右段 ㉑	<p><u>㉑最初に陸上に進出したといわれる植物および動物は何というか。</u></p>	<p><u>シルル紀に現れた、クチクラを表皮にもった植物を何というか。</u></p>
	196	左段 ㉑	<p>㉑ 植物：<u>クックソニア(シダ植物)</u> 動物：<u>イクチオステガ</u> (両生類の祖先)</p>	<p><u>クックソニア(シダ植物)</u></p>
15	176	7	<p><u>太平洋の赤道付近</u></p>	<p><u>東部太平洋</u></p>
	188	㉑	<p><u>㉑太平洋の赤道付近で</u></p>	<p><u>東部太平洋</u></p>
16	176	16	<p>赤道付近の<u>海流</u>は貿易風に引きずら</p>	<p><u>海水</u></p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
17	176	22	<p>圏界面で東に向か →p.62</p>	<p><u>付近で</u></p>
18	179	10-11  18-20	<p>て春の気温が上昇する傾向にあることで、開花時期が早まっていると考えられる。_____</p> <p>とともに、豪雨の頻度が増加する傾向が見てとれる。ただし、都市で観測された気温の上昇傾向には、ヒートアイランド<sup>④</sup>の影響が含まれる点に注意が必要である。異常気象の発生や地球規模の気候変動を予測する</p>	<p>ただし、都市で観測された気温の上昇傾向には、ヒートアイランド<sup>④</sup>の影響が含まれる点に注意が必要である。</p> <p>削除</p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
19	186	左写真		
20	189	㊦(1)	<p>(1) <u>図1, 2</u>のように,</p>	<p><u>図2</u>のように,</p>
21	194		 <p>原子番号は、IUPAC (国際純正・応用化学連合) で承認された最新の数値に基づき、日本化学会原子量委員会が独自に作成した4桁の<u>数値</u>です。元素記号がなく式量の両面表示と比較していない式量については、同位体の質量数の一桁を「」の中に示しました。</p>	<p>6.94</p> <p>数値(変動幅の大きい「Li」は3桁を</p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
22	195	中段 10 C	C <u>はんれい岩</u>	<u>斑れい岩</u>
23	196	左段 3章 1 (2)	1 (1)④ (2)①	⑥
24	196	中段 4章 9	9 (1)ウーアーエーイ (2)エ <u>ネアンデルタール</u> (3)ホモ・ <u>サビエンス</u>	エ 旧人 ( <u>ホモ・ネアンデルターレンシス</u> ) 新人 ( <u>ホモ・サビエンス</u> )
25	21	1	<u>海底地形と陸地の地形</u>	<u>年代</u>
26	21	16-17	<u>リソスフェア</u> とよばれてい 近までは <u>アセノスフェア</u> と	<u>リソスフェア</u> <u>アセノスフェア</u>
27	179	14	<u>短時間降水</u>	短時間 <u>降水量</u>